

事業完了報告書（実行団体）

| | |
|-----------------|---|
| 事業名: | 緊急事態下における子ども及び若者による芸術創造活動の支援事業 ～芸術教育のユニバーサルデザインとトラウマケアに関する取り組み～ |
| 資金分配団体名: | 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン |
| 実行団体名: | 認定特定非営利活動法人 ミュースの夢 |
| 実施時期: | 2020年11月～2022年1月 |
| 事業対象地域: | 全国 |
| 事業対象者: | 発達(身体的・知的・精神的)に何らかの障がいを抱えている子ども、入院・長期療養中の子ども、とその保護者・支援者 |

Version 3.2

日付: 2022年02月14日

I. 事業概要

| | |
|---------------|--|
| 事業実施概要 | 新型コロナウイルスの影響により教育格差および体験格差が急速に広がるなか、様々な発達障害を抱える子ども、若者たちのニーズに寄り添った芸術教育プログラムをリモート体制と訪問体制（少人数制）にて実施。リモート体制は入院中の対象者のシステム環境に配慮し、オンラインとオフラインのハイブリット供給にて行う。美術・デザイン、音楽、臨床心理学、発達診療、発達支援の各分野の有識者らと協力し、すべての教材のユニバーサルデザイン化を図る。より楽しい隔離生活を送っている入院中の子どもたちも、プログラムに参加することで、新たな社会との繋がりを創り、自分の居場所や未来に希望を感じられるよう、サポートする。 |
|---------------|--|

II. 課題・事業設計の振り返り

| | |
|--------------------------|--|
| 課題設定、事業設計に関する振り返り | 二度の緊急事態宣言に加え、活動拠点である宮城県では2020年12月から2021年5月にかけて地震が相次ぎ、特に2021年3月20日は最大震度5(マグニチュード6.9)を観測した。そのため、事業対象者の中には、相次ぐ災害に伴う警報（地震、津波）、原発やコロナに関する報道に伴い、2011年の震災による、不安症状やトラウマ・PTSDの発症や、ひきこもりや不登校に繋がったケースが多くみられた。コロナによる外出制限が2020年3月以降一時的に続いている小児科病棟などと提携し、活動を実施した結果、利用世帯数は想定ニーズの約7倍以上にのぼった。総合的に良かった点としては、今回美術教材の教材開発において、普段発達支援及び発達診療には携わっていない分野（アート、デザイン、等）で活躍する専門家に、発達診療医の協力のもと制作を依頼したところ、対象者の反応が好意的・意欲的だったこと（保護者の方々から本活動のコンセプトをそのまま活用し就業施設や放課後デイケアサービスを行ってほしいという声も寄せられた）、反省点としては、人材不足であった。今後サポートを拡充していく上で、資金確保をしながら、インフラと運送体制の整備を進めたい。 |
|--------------------------|--|

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

| ① 受益者 | ② 課題 | ③ 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット） | ④ 指標 | ⑤ 目標値・目標状態 | ⑥ 結果 | ⑦ 考察 |
|--------|------------|--|--------------------------|---|--|---|
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | 学習支援教材配布数(100世帯もしくは学級以上) | 学習支援教材配布数が100世帯となる | 2021年6月までに489世帯に配布完了 | 教材配布期間(2021年1月～7月)において、コロナ禍の長期化に伴い、院内・学内や地域行事の中止が相次いだため、施設や病院など団体としての申し込みがあり、想定以上の利用世帯数となった。 |
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | 当事者参加型プログラムの参加人数 | 当事者参加型プロジェクトの参加者数が合計260名となる | 全体で252名(子ども&若者=244名、大人参加者=8名)が参加 | 義務教育のがんこどもではあまり取り組まれることのない「デザインプロジェクト」であること、子どもから大人まで親しみやすく、創造力を掻き立てられる内容であった事が関係した。また、提携施設との事前打ち合わせ・ヒアリングにより施設の把握している範囲で経済的に困難していることみなされる家庭が利用世帯全体の約30%を占めていたため、全プログラムを無料化したことも利用世帯数の大幅増加に繋がったと予想される。その他、JANPIAと公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの助成を受けていることが、提携施設・病院との信頼となり、特別な広義・プロモーションをかけずとも、多くのかたに安心してご利用いただくことも大きく関係している。 |
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | 訪問・学習支援開催実績数 | 訪問・学習支援・プロジェクト開催実績数のカウント数が合計60回となる | 2020年11月より、緊急事態宣言発令などにより度々中止・延期が相次いだものの、助成期間中合計64回の訪問クラスと22回に渡る臨時のアートワークショップを行うことが出来た。合計回数86回。参加人数:子ども約310名・大人約70名=合計リサーチ数約380名。 | 毎年約90～120公演2～3倍の参加者率(客席数)で行われている訪問教室・訪問コンサートだが、2020年度と2021年度はコロナの影響でお申し込みが少なかつた。訪問先でもコンサートの内容を短縮し、客席を1/2～1/3におさえ、公演することで対応した。客席側も演奏する側も感染対策を行いながらのイベントとなり、終始緊張感があったが、音楽に元気づけられ笑顔が広がったり、涙する参加者のかたもいらした。 |
| 子ども・学生 | 連携の不足 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | 提携医療・教育機関数 | 本事業における提携施設・事業所が5カ所以上となる | 発達療育や学習支援をおこなっている保育園、幼稚園、支援学校、事業所19ヶ所と当法人にて配布(合計20ヶ所)。*そのうち2ヶ所は、東日本大震災より甚大な津波の被害を受けたエリアに位置。 | 資金分配団体であるJANPIAと公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの助成を受けていることが、提携施設・病院と協力体制を組む上で信頼力となり、宮城県立こども病院をはじめ各団体とスムーズに連携して活動を進められたことができた点が最大の理由として挙げられる。 |
| 子ども・学生 | 学習機会の不足/格差 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | 配信コンテンツ視聴数 | 配信コンテンツ視聴数合計が5000回(助成期間内に配信されたすべての動画における視聴数の合計、YouTube、Instagram Videos、等)となる | 配信コンテンツ(37動画) 総合再生数 = 6,116回。 a.) 「Strings of Love」動画再生数 = 1692回。 b.) 国内外の学生ボランティアや学生ボランティアなどによるリリアン配信動画コンテンツ(音楽動画アプ数19、ポジナル自然風景、サウンドスケープ動画アプ数12、参加者制作風景動画アプ数2、アートワークショップ動画アプ数2、合計: 35)の合計再生回数は、約3,365回。 | プログラム参加者それぞれの創造した音楽や美術作品がオンライン上でひとつの場所に集まる、というコンテンツの動画を制作し、6000回を超える再生数で、視聴者に音楽やアートを通じて安らぎやコミュニティの連帯感を届けることができた。提携団体、支援対象者であった子ども・保護者、他に外部の一般の方々も視聴してくれた。子どもが描いたイロ・カタ豊かな絵は多くの人に安らぎも感動を届け、実行団体である当法人メールや紙媒体によるお手紙など、70件以上の感想や感謝状が院内の小中学生や参加者の保護者から寄せられた。「障がいを持った子どもには、仕事や夢とは無縁の人生しかないと感じていたが、子どもだけじゃなく支える家族にとっても将来に希望を感じられる活動であり、感謝している。継続してほしい(関連した就業施設を作ってください)」という声も保護者から寄せられた。 |
| 子ども・学生 | 連携の不足 | [新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・文化的環境(教育を受ける権利の格差)から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] - 対象者100世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。 | アンケート結果 | 提携医療・教育施設にて実施予定のアンケートにて、対象団体による平均評価が、5段階評価のうち評価値3.8以上となる | 団体としてお申し込みいただいた11の提携施設・病院のうち、8団体にてご回答いただいたアンケートで、2回アンケート「5」をいただいた。 | どの提携先でも行事や外出が自粛されるなか、感染状況に関係なく参加できる内容であったこと、また、3つの対象先では未就学児童が通学・通院していることから、参加者の約半数が、1～6歳であったことから「1歳からでも楽しんで参加できる内容であったこと」「1歳の子どもでも、中高生でも一緒に楽しめるプログラムの内容」を評価していただいた。また、学習プログラムの成果物である絵本(参加者全員の作品を掲載)をこども病院の入院患者さん全員(200世帯)にクリスマスプレゼントとしてお届けた旨など、本事業の活動理念に共感してくださったことも高評価につながったと考えられる。そして何よりも各事業所、学校、病院で、夢中になって作品づくりに参加してくださった対象者の皆さまのおかげで信頼を得られたと感じている。 |

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

| | |
|----------------|---|
| 事業実施以降に目標とする状況 | 通信プログラムや参加型アートプロジェクトを受けた子どもや家庭に、今後新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックが再発・長期化した際に、また入院中・退院後の回復期に、遠隔からでも参加できる芸術創造活動、芸術教科の学習支援、及びコミュニケーションとして本プログラムを利用していただけるよう努めたい。重い病を抱えた子どもたちは、療養生活の長期化により心が塞ぎ込みがちな傾向があるため、自己表現・自己発信のプラットフォームとして安心して利用できるよう、プログラム運営の整備には特に注力したいと考えている。尚、配信・配信された学習支援教材、プログラムの総てまたは一部を多言語化し、オープンソースとしてYouTube/Vimeoを通して配信し、多くの子どもたちの心の成長と心のケアに貢献したい。事業のレビュー、参加者のアンケート及び調査研究結果も可能な範囲でオープンソース化し、現在舌根にある教育現場や教育研究に貢献したい。 |
| 考察等 | 本事業では、1年3ヶ月に渡り「アート」<音楽><こころのケア><自然観察>を、かじりक्रमを組み合わせた4つの軸としてアート及び訪問教育事業を実施してきたが、対象者として保護者の方々によるご要望が多数寄せられたことあり、今後も持続可能な形で継続する。前述の4つの軸がより多くの方々の学び、そして笑顔や変化をもたらすよう、本事業により充足したスタッフ・講師の勉強会はこれからも引き続き行う。尚、資金分限団体である公益社団法人セーブ・ザ・ワールド・ジャパンに助成期間中受講していただいた「子どものセーフ・ゲディング」と子どもたちのための心理的応急処置に関する勉強会団体として引き続き引き継ぎ、保護者会にご相談のもと、当会の利用者の方々へ寄り添った内容「表現で「子どものセーフ・ゲディング」を作成し、周知を深め、子どもや若者にとって安心して暮らせるまわりの環境に貢献したい。 |

V. 活動

| 活動 | 進捗 | 概要 |
|---|------|--|
| 様々な障がいをもった子どものニーズに配慮した遠隔による教育のコミュニケーションデザイン（音楽、美術、トラウマケアの3つの観点から）(1)連携施設および有識者向け企画、実態調査(2)教材と教育メソッドの研究 (3)実践(4)アンケート実施 (5)報告書まとめ | 計画通り | 連携施設運営者及び事業対象者の保護者から、コロナ禍における学習態勢や芸術創造活動についてアンケート、回答人数(保護者：48名、連携施設運営者：9名)その内、中学生以上の知的障害を抱える対象者は絵本や小学生用のドリルを活用したり、DVDやネット動画を活用しているという実態が分かった。同時に、Zoom や Skype などオンライン用の通信アプリを活用した「インタラクティブなオンライン授業」については、適切なシステム環境が自宅や施設に整っていないという回答が68%、試してみたが効果がなかった(対象者が内容を理解・認識できなかった、など)が24%、となり、自宅でオンライン授業を活用している・活用できそうだと回答したのは8%だった。そのため、通信による芸術活動支援は、教材等の配布は基本的には紙ベースで行った。訪問コンサートやワークショップにおいては、分散・少人数態勢を中心として行い時間を短縮するなど、感染防止のガイドラインに基づき継続した。コロナ禍による活動休止や制限はあるものの、提携機関の協力により、助成期間中の1年間、80回以上の訪問教室やワークショップを無事終了された。 |
| オンライン配信用動画(コンサート形式、他)の(1)企画制作・打ち合わせ (2)リハーサル (3)「Strings of Love」撮影 (4)「Strings of Love」配信 (5)「Make your own Kotori」制作 (6)「Make your own Kotori」配信 (7)トラウマケアに関する動画制作(8)トラウマケアに関する動画配信 | 計画通り | 「Strings of Love」は 配信動画制作は感染防止ガイドラインを守り、リハーサル、撮影、編集に取り組みすることができた。内容は、ハンディを抱える子どもたちが山台フルハーモニ管楽器演奏者の方々の手解きのもと本格的なワイヤレスのレッスンを受講し、県内の大学生らと協力し、入院中・長期療養中のオーディエンス音楽を届けるプログラム。現在は、企画第二弾となる、1年後のオケストラ結成へむけて練習を重ねている。アートセラピー動画 日本語字幕： https://www.youtube.com/watch?v=KxSlkznRevw 英語字幕： https://www.youtube.com/watch?v=F6zIS-HLY5U トラウマケアに関する動画はコロナウイルスの全国的な感染拡大により、長期・対面による動画撮影が難しくなってきたことから、トラウマケアを専門とした臨床心理士による自然災害時のセルフメンタルケアを題材とした中学生向けのストーリー（教材）を完成。現時点では、英語、日本語、フィリピン語、ベトナム語に翻訳され、特設HPより一般公開した。以後、スランカ語、インドネシア語、中国語、など大規模の自然災害が起こりやすい地域の言語を中心に翻訳していく。HPリンク： kotoriproject.com/traumacare |
| 当事者参加型パブリック・アート・プロジェクト(1)企画制作・打ち合わせ (2)協力団体募集(3)作品公募 (4)対面・オンラインによるワークショップ開催 (5)作品データ化 (6)オンラインギャラリー(7)絵本の共同制作（対面による展覧会やコンサートなどのイベントが開催できない代わりに出版）(8)録音図書制作(9)配布・配信 (10)参加者と協力団体へむけたアンケート実施 | 計画通り | 対象者のアンケート回答内容に基づき、美術と発達診療の有識者のコラボレーションによって完成した教材は、発達支援を必要とする1歳～45歳が楽しめ、かつそれぞれの創造性や構成力が発揮できる内容となった。その結果、教材が配布された約500世帯の半数以上から参加があり、51%のリターン率となった。訪問・ワークショップも、本事業による感染者が出ることなく、感染防止のガイドラインを守って行うことができた。コロナ禍の長期化により、参加作品のエキシビションなど公的イベントは開催できなかったが、それぞれがデザインした作品がひとつの樹に集まるストーリーの絵本が完成。県立こども病院をはじめとする小児科病棟や院内待合室、発達支援学校や児童館の図書館・図書室へ1～2冊ずつ＝合計550冊へ無償で寄贈。感染率の上昇に伴い配達業務に一時的延生したものの、ボランティアの方々の協力によって配達完了。参加作品の創造力そして完成度の高さに予想以上の反響があり、プロからの評価も高い。プロジェクトHP： kotoriproject.com 録音図書 https://www.youtube.com/watch?v=ipqw7LNL2o4 公式インスタグラムサイト： https://instagram.com/kotori_project 事業終了後、協力団体運営者に対し実態調査とアンケートを依頼し、活動及び教材に対する評価において5/5(5段階評価)をいただいた。 |

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

| | |
|---------------------|---|
| 想定外のアウトカム、活動、波及効果など | 提携機関とのヒアリングにより、本事業の最年少年齢参加者は1歳(6名)だったという事がわかった。2～6歳の未就学児の子どもも130以上参加していた。当初参加者の平均年齢は16～17歳を想定していたが、平均年齢は11歳と予想を下回ったこととなった。各提携機関の担当者の方々から「はみ出したところその人らしさやオリジナリティが出てくると思います。これは塗り絵ではなく、デザインだから、はみ出すことを恐れず自由に表現してみてください。という講師・スタッフ向けのインストラクションの斬新さと、自由さに勇気づけられたとコメントをお寄せいただいた。未就学児童の参加者の数も「知覚過敏」と診断を受け、ゆるゆるしたものや、冷たいものが触れない傾向がある子どももいたが、「表現することに夢中になって、いつの間にか絵の具を素手で塗っていた」「知らぬうちに子どもはまじく成長していたことに気づかせていただきました」など作業療法士の方々からもお寄せいただいた。また、作品づくりに参加した対象者の保護者の方々からは「娘の内側に色を塗る事ができないので、このプロジェクトには参加できないと思っていたが、先生にはみ出して良いと言われて気持ちよくなった」「私の息子は生まれて一度も言葉を発したことはありませんが、絵本の完成会に出席した際、「お母さん、これが僕だよ。これが僕だよ。これが僕だよ。これが僕だよ」と言われた気がしました。」「なだたかのお便りもお寄せいただいた。参加者の方々を通じて絵本を鑑賞できた。発達支援学校の教師の先生から「子どもたちにもすごい才能が眠っていたなんて。感動して涙が出ました」「みんなの表現力に感銘を受けました。発売してほしいなどのお言葉をお寄せいただいたり、子どもたちの作品のファンが増えることでハンディを抱える子どもたちの活動を支えている機関同士つながりも強くなっていることを感じた。絵本を手にとられた方YouTubeで録音図書をお聞きになったから、2022年1月の時点で、活動もむけたご寄付を個人・企業の方々から24万円に寄付いただいた。 |
|---------------------|---|

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

| | |
|-----------|---|
| 課題を取り巻く変化 | 本事業の実施期間中から現在に至るまで、宮城県立こども病院では入院患者へむけた厳しい外出制限が継続されており、例年行っている訪問コンサートやワークショップが未だ行えていない。コロナ収束時にコンサートを行う際には、本事業で培ったアートプロジェクトや録音図書制作のノウハウを活かした訪問活動を再開させたい。2年間休止されていた発達支援学校の訪問事業も、来年度の学校行事としてご依頼を承るケースが少しずつではあるが増加している。IVで申し述べた活動を推進しながら、この2年間休止していた学校および医療機関への訪問活動を再開しながら、芸術を通じた子どもたちのこころのケアに尽力したい。 |
|-----------|---|

VIII. 他団体との連携

| 連携先 | 実施内容・結果 |
|--------------------------------------|--|
| 宮城県立こども病院発達診療科 | 本事業におけるアートプログラム制作を総合監修。他事業所との取り組みから、絵本の内容に関するアドバイス。結果2021年12月25日に県立こども病院入院患者全員(192名)に絵本「コトりの森のオーケストラ」を寄贈。訪問事業連携先（今回はコロナ禍の病院側の活動規制により訪問事業は実施できず）。 |
| 児童発達支援 And You Try 宮城郡利府 | 小中高生を中心に46名の児童がアートプロジェクトと絵本づくりに参加。訪問事業連携先。 |
| 東仙台シュタイナー 虹のこども園 | 幼稚園生、小学生を中心に38名の児童がアートプロジェクトと絵本づくりに参加 |
| 児童発達支援スクール コハルプラス 仙台長町南教室 | 2～6歳までの未就学児46名がアートプロジェクトと絵本づくりに参加。 |
| 機能型支援事業所 まへぶる・びーと | 1歳～5歳までの未就学児を中心に49名の児童がアートプロジェクトと絵本づくりに参加。 |
| こどもサポート教室「クラ・ゼミ」中野教室、富谷教室、富沢教室、泉中央教室 | 小中学生を中心に20名の児童がアートプロジェクトと絵本づくりに参加。 |
| 宮城県立こども病院口腔外科 | 外来患者50名へ教材配布。任意参加。 |
| 宮城県立小松島支援学校 | 訪問事業連携先。小中学生生徒約60名を対象に訪問コンサートを実施。 |
| 宮城県立拓桃支援学校 | * 宮城県立こども病院に隣接された県立の支援学校（入院児童が通学）。小中学生を中心に48名へ教材配布。任意参加。訪問事業連携先（今回はコロナ禍の病院側の活動規制により訪問事業は実施できず）。 |
| 宮城県立光明支援学校 | 訪問事業連携先（今回はコロナ禍の病院側の活動規制により訪問事業は実施できず）。 |
| 宮城県立西多賀支援学校 | 中高等部に所属する約35名へ訪問コンサートを実施。 |
| Rickyアカデミー「就労準備型」放課後等デイサービス | 発達支援学校の中高等部に通学する利用者15名が参加。 |
| 一般社団法人 みやぎ青少年トータルサポートセンター | 小中学生を中心に10名の児童が参加。 |
| 児童発達支援センター なのはな園 | 未就学児童40名へ教材配布。任意参加。 |
| 児童発達支援センター 仙台市なかよし学園 | 未就学児童30名へ教材配布。任意参加。 |
| 児童発達支援事業所 仙台市あおぞらホーム | 未就学児童30名へ教材配布。任意参加。 |
| 社会福祉法人なのはな会 こまこさ苑 | 訪問事業連携先。少人数体制でコンサートを複数回に渡り実施。リ・子数のべ120名。 |
| NPO法人 自閉症ピアリングセンター こねっと | 未就学児童25名へ教材配布。任意参加。 |

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

| 事業費 | 計画額 | 実績額 | 執行率 |
|-------|-----------|-----------|--------|
| 直接事業費 | 5,548,500 | 5,548,500 | 100.0% |
| 管理的経費 | 511,500 | 511,500 | 100.0% |
| 合計 | 6,060,000 | 6,060,000 | 100.0% |

補足説明

| |
|------|
| 補足説明 |
|------|

X. 広報実績

| 広報内容 | 内容 |
|--------------------------------|--|
| 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等) | 1) 休眠預金活用事業サイト「離れていても、子どもたちと芸術を通じてつながりを生み出す～ミュージズの夢～」 https://kyuminvokin.info/articles/525 2) Kotori Project 公式ウェブサイト: http://kotoriproject.com 3) Kotori Project 「こころのケア」特設サイト: http://kotoriproject.com/traumacare/ 4) 公式Instagramサイト: https://instagram.com/kotori_project |
| 2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの | 1) Kotori Project アートプログラム教材「心のようふく」2) 絵本「コトの森のオーケストラ」3) Strings of Love 配信コンサート 配布用リーフレット |
| 3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例) | 1) Strings of Love 動画: https://www.youtube.com/watch?v=NHGuo3V-qv4 2) 録音図書「コトの森のオーケストラ」 https://www.youtube.com/watch?v=jqw7LNL2n4 3) Kotori Project アートセラピー 動画: アートセラピー 動画 日本語字幕: https://www.youtube.com/watch?v=KxSlkznRew 英語字幕: https://www.youtube.com/watch?v=F6zIS-HLY5U |
| 4.報告書等 | 会報 (年3回) 「ミュージズ便り」2020年11月、2021年4月、2021年6月、2021年11月 |

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

| ①規程類※の整備実績 | 状況 | 内容 |
|---|---------|----------------------------------|
| ※規程類: 定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む) | | |
| 1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。 | 完了 | |
| 2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。 | | |
| 3.整備が完了した規程類を自団体のウェブサイト上で広く一般公開していますか。 | 一部未公開 | 2022年3月に行われる理事会で最終決議をとり、5月に公開予定。 |
| 4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。 | 変更はなかった | |
| ②ガバナンス・コンプライアンス体制 | 状況 | 内容 |
| 1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。 | はい | |
| 2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。 | はい | |
| 3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。 | はい | |
| 4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。 | はい | |
| 5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。 | はい | |
| 6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可) | 内部監査 | 内部監査 (役員である監事による監査) |
| 7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。 | いいえ | |
| 8.内部通報制度は整備されていますか。 | はい | |